

平成 22 年 2 月 23 日

各 位

不動産投資信託証券発行者名

東京都港区六本木六丁目 10 番 1 号

六本木ヒルズ森タワー

ジャパン・ホテル・アンド・リゾート投資法人

代表者名 執行役員

鈴木 博之

(コード番号：8981)

資産運用会社名

ジャパン・ホテル・アンド・リゾート株式会社

代表者名 代表取締役

鈴木 博之

問合せ先 管理本部長

板橋 昇

TEL. 03-6439-0333

2010 年 1 月度の月次開示に関するお知らせ

ジャパン・ホテル・アンド・リゾート投資法人（以下「本投資法人」といいます。）の 2010 年 1 月度の月次総売上高並びに宿泊部門の客室稼働率、ADR 及び RevPAR を下記のとおりお知らせいたします。本投資法人は変動賃料の支払いを伴うホテルであって、ホテル賃借人である株式会社ホテルマネージメントジャパンから開示について同意をうけることができたホテルについて継続的に月次開示をいたします。

記

ホテル／項目		1 月度	対前年 同月増減 注6)	(参考) 累計 注7)	(参考) 対前年 累計増減 注8)
神戸メリケンパーク オリエンタルホテル	稼働率	70.7%	5.4%	74.6%	-1.0%
	ADR (円)	12,485	-1,700	14,710	-1,725
	RevPAR (円)	8,821	-437	10,977	-1,443
	売上高 (百万円)	406	29	2,612	-88
オリエンタルホテル 東京ベイ	稼働率	76.4%	-3.6%	86.4%	-2.3%
	ADR (円)	13,368	-1,296	16,689	-2,234
	RevPAR (円)	10,208	-1,514	14,426	-2,359
	売上高 (百万円)	474	2	2,746	-248
なんばオリエンタルホテル	稼働率	75.5%	2.2%	80.5%	-0.4%
	ADR (円)	9,025	-1,372	9,207	-1,646
	RevPAR (円)	6,813	-804	7,410	-1,367
	売上高 (百万円)	141	-8	729	-63
ホテル日航アリビラ	稼働率	47.1%	-8.5%	59.4%	-15.2%
	ADR (円)	20,106	-680	23,296	147
	RevPAR (円)	9,465	-2,085	13,842	-3,441
	売上高 (百万円)	244	-46	1,656	-372
オリエンタルホテル広島	稼働率	59.3%	-3.9%	71.3%	-3.3%
	ADR (円)	8,455	-221	8,977	-59
	RevPAR (円)	5,014	-473	6,397	-343
	売上高 (百万円)	131	-24	904	-59
上記 5 ホテル合計	売上高 (百万円)	1,396	-47	8,647	-831

1 月度の実績に関するジャパン・ホテル・アンド・リゾート株式会社（資産運用会社）からのコメント：

神戸メリケンパークオリエンタルホテルについて

宿泊部門では、価格訴求型商品の積極的な販売により稼働率は前年同月を上回ったものの、ADRは前年同月を下回る結果となり、売上も前年同月を下回りました。料飲部門において、婚礼宴会、一般宴会の売上は共に件数増により前年同月を上回り、レストラン売上もファミリーの集客に成功し前年同月を上回ったため、部門全体売上は前年同月を上回りました。結果として、ホテルの総売上は、前年同月を約29百万円上回りました。

オリエンタルホテル 東京ベイ（旧：新浦安オリエンタルホテル）について

宿泊部門では、東京ディズニーリゾート25周年の集客効果剥落及び競合施設間の価格競争が強まる中、柔軟な価格政策を実施しましたが、稼働率及びADR共に前年同月を下回り、売上も前年同月を下回りました。料飲部門において、レストラン売上は景気停滞の影響等から売上が減少し、前年同月を下回ったものの、婚礼宴会の売上は新チャペルオープンの効果等により前年同月を上回りました。結果として、ホテルの総売上は前年同月を約2百万円上回りました。

なんばオリエンタルホテルについて

宿泊部門では、価格訴求型商品の積極的な販売により、稼働率は前年同月を上回りましたが、ADRの低下を避けられず、売上は前年同月を下回りました。レストラン売上はこれまで実施してきた集客施策が奏功し、前年同月を上回りました。結果として、ホテルの総売上は前年同月を約8百万円下回りました。

ホテル日航アリビラについて

宿泊部門では、沖縄への入島者数が前年同月を下回る傾向が続く中で、高単価商品の需要が弱く、稼働率及びADR共に前年同月を下回り、売上も前年同月を下回りました。料飲部門は、宿泊者数の減少を主因に売上が前年同月を下回りました。結果として、ホテルの総売上は前年同月を約46百万円下回りました。

オリエンタルホテル広島について

宿泊部門では、集客チャネルを拡充し需要取り込みを強化したものの、稼働率及びADR共に前年同月を下回り、売上も前年同月を下回りました。料飲部門において、婚礼宴会の売上が件数減少により前年同月を下回り、レストラン売上も利用者数の減少により、前年同月を下回ったことから、部門全体の売上は前年同月を下回りました。結果として、ホテルの総売上は前年同月を約24百万円下回りました。

注 1) 上記のコメントは資産運用会社が貸借人から提供を受けた情報に基づいて作成しており、あくまでおおむねの傾向についての参考情報として記載するものにすぎません。コメント中に記載された数値・情報については、監査等の手続を経ているものではなく、資産運用会社による独自の検証を行ないうる性質のものでもなく、個々の数字・内容の正確性・完全性について保証できるものではありませんのでご注意ください。

注 2) 各月の数字については監査等の手続を経していないため、各月を合計した金額は、後に提出する半期報告書、有価証券報告書に記載される6ヶ月間及び年間の売上合計と合わない場合があります。また、各月の売上についても、半期報告書、有価証券報告書に記載される各月の売上と相違する場合があります。

注 3) ADR：平均客室販売単価（Average Daily Rate）をいい、一定期間の宿泊部門売上高合計（サービス料を除きます。）を同期間の販売客室数合計で除した値をいいます。

注 4) RevPAR：販売可能客室数当たり宿泊部門売上（Revenue Per Available Room）をいい、一定期間の宿泊部門売上高合計を同期間の販売可能客室数合計で除したものをいい、ADRと客室稼働率の積にて計算される数値と同値となります。

注 5) 客室稼働率については小数点第2位を、ADR、RevPARについては小数点第1位を四捨五入して記載しています。売上高については、百万円未満を四捨五入して記載しています。

注 6) 対前年同月増減とは当該月と前年同月との増減を記載しています。

注 7) 累計とは当期期首から当該月までの累計値を記載しています。

注 8) 対前年累計増減とは、当期期首から当該月までの累計値と前期期首から前年該当月までの累計値との増減を記載しています。

以上

*本投資法人のホームページアドレス：<http://www.jhrth.com/>